

# 平野 be 商店街



地域コアグループ

笹尾 油井 三倉 佐竹 福士

# 平野商店街について

---

- 平野郷の中心軸に位置している。
- 戦後の闇市から発展してきたが、平野郷には溶け込んでおらず、現在では衰退傾向である。
- 歴史のある老舗が多い。歴史ある町家が点在し残っている。
- 売るだけではなく、話す。対面販売が随所に見られる。

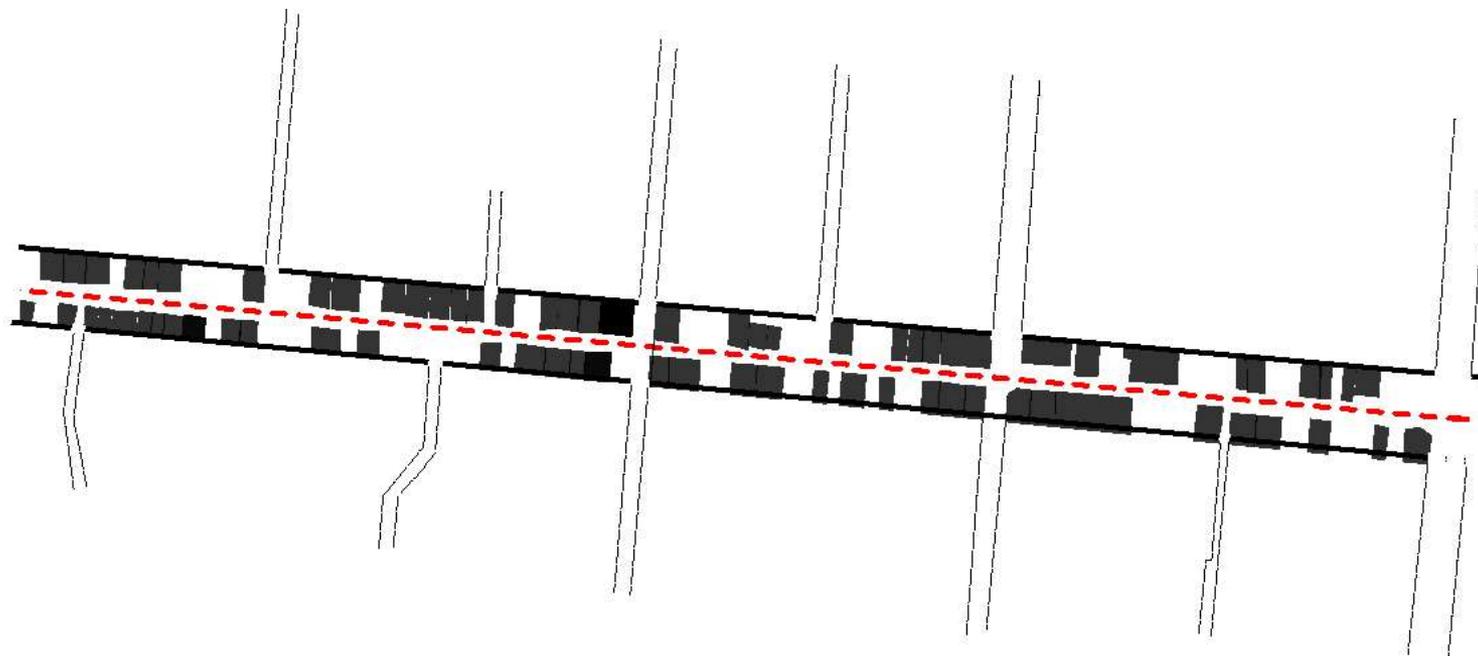
# 問題点

---

- ・客層が偏っていて、若い人が少ない。
- ・通過にだけ使っている。
- ・閉店時間が早く、夜はとどまっている
- ・留まれるところが少ない。

# 商店街の現状

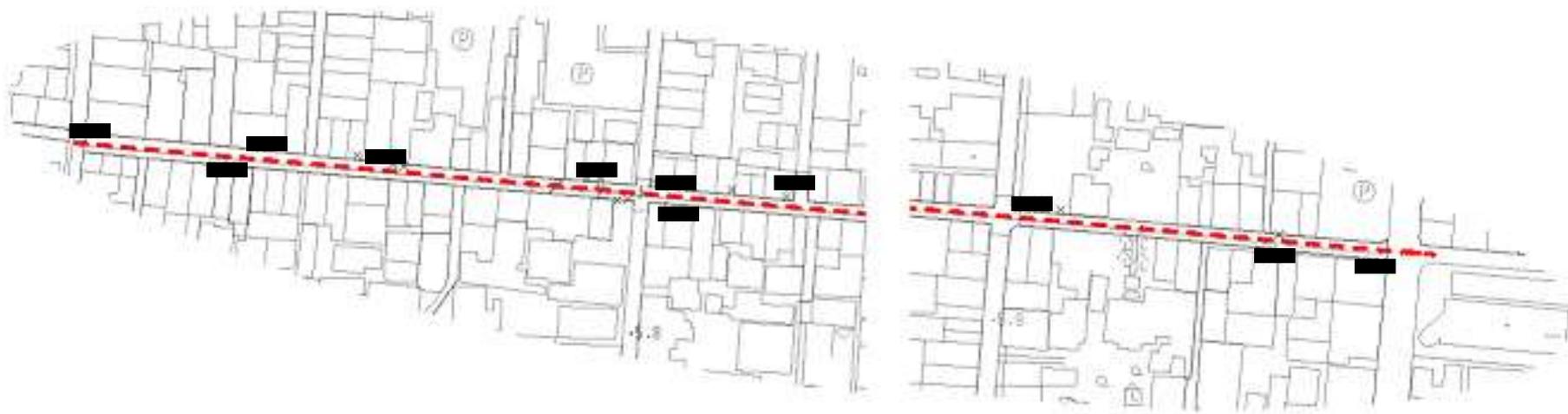
## オープンスペース



- ・空き店舗が多い。空間の活用が必要。

# 商店街の現状

## 自転車の駐車状況

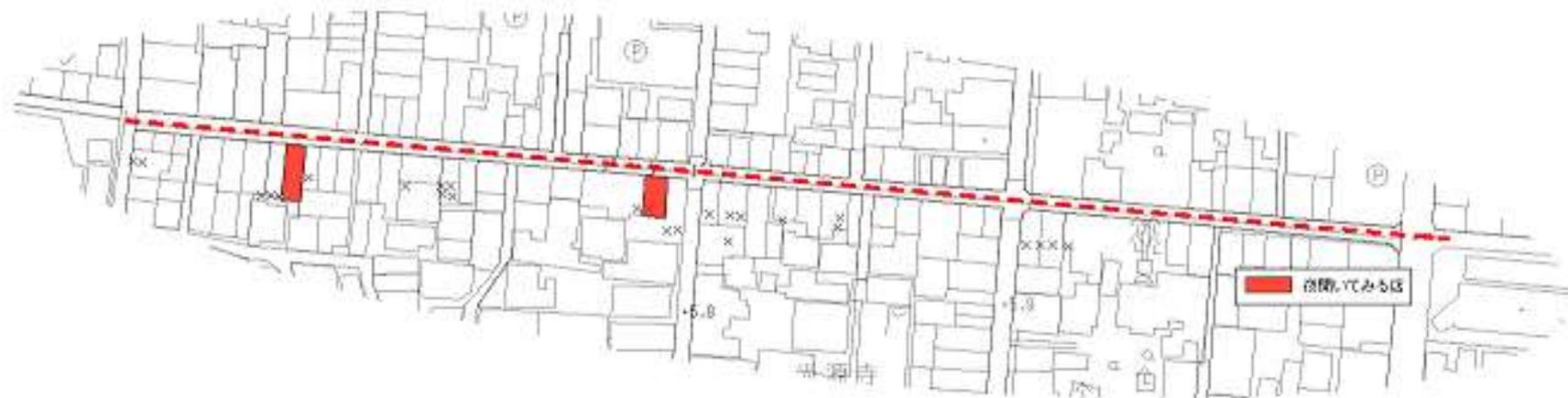


■ 自転車

- ・自転車の駐輪場が必要

# 商店街の現状

## 夜開いている店

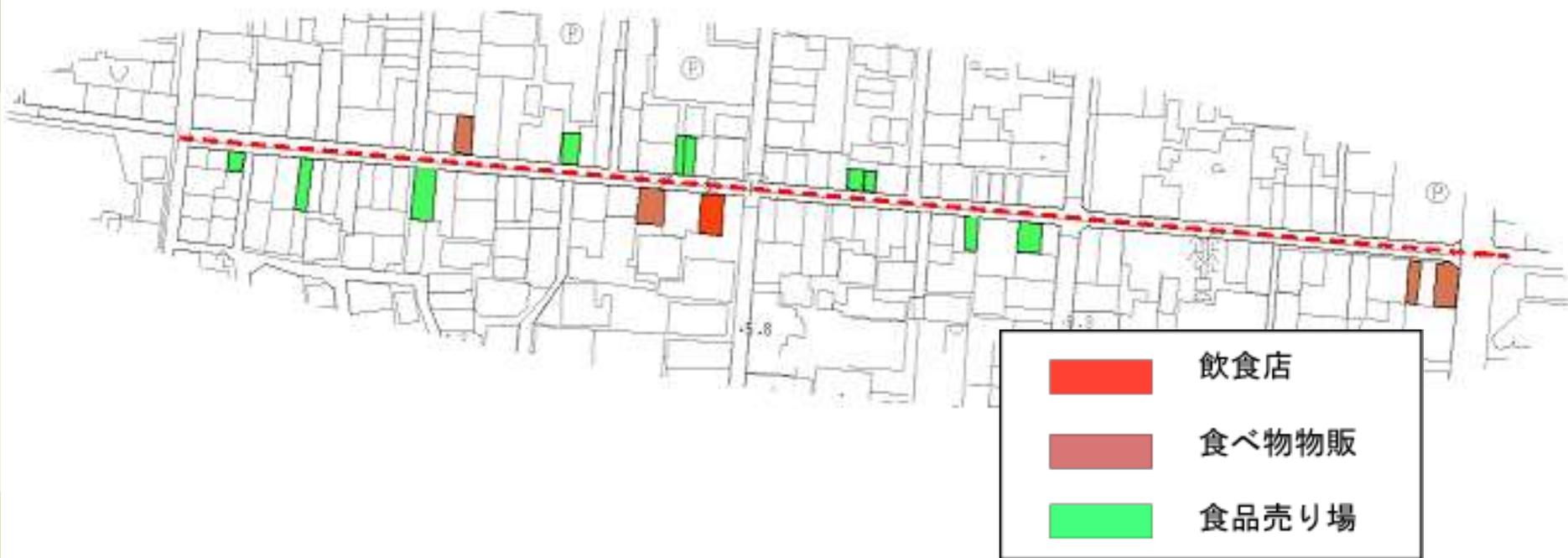


■ 夜開いている店

夜開いている店が少なくて寂しい。

# 商店街の現状

## 食べ歩きの店



たこ焼き、お好み焼き、惣菜など食べ歩きの出来る店がそろっている。

# ヒアリング

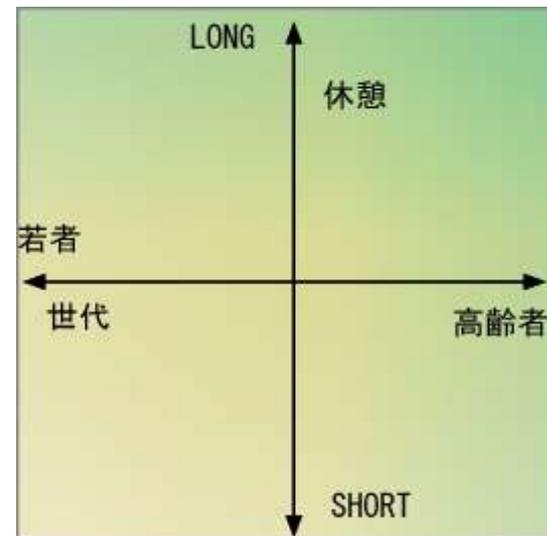
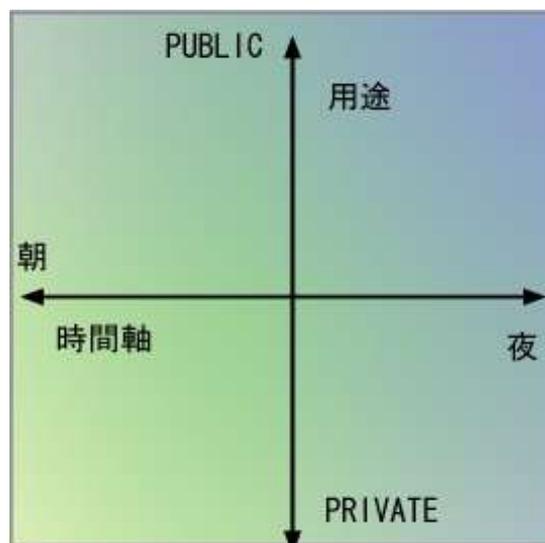
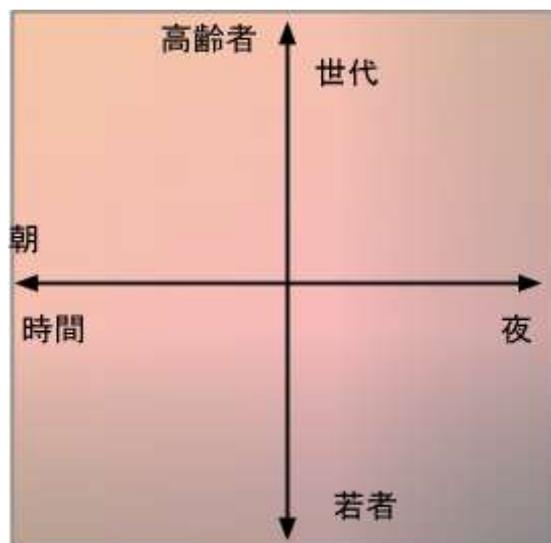
---

- 周辺の工場の移転、スーパーの立地、南海平野駅の閉鎖などの影響で衰退してきている。
- 商店街自体が高齢化してきている。
- 後継者不足。若者が店を開くことには好意的であるが、賃料が高く、障害となっている。
- 物を売るだけでなく、アドバイスなどの対話が商売の強みであり、商店街の伝統である。
- お客さんと話をするのは楽しい。
- HOPE事業を活用した花屋の売り上げは伸びている。デザインに好意的な人が多いから？

# コンセプト

- ・ 商店街に見られる人同士のつながり着目し、さまざまな世代や時代、時間、業種に育っていくきっかけをつくる

きっかけの軸



# 提案1: まちの人による託児所

---



# 提案2：旧朝日新聞販売所

---



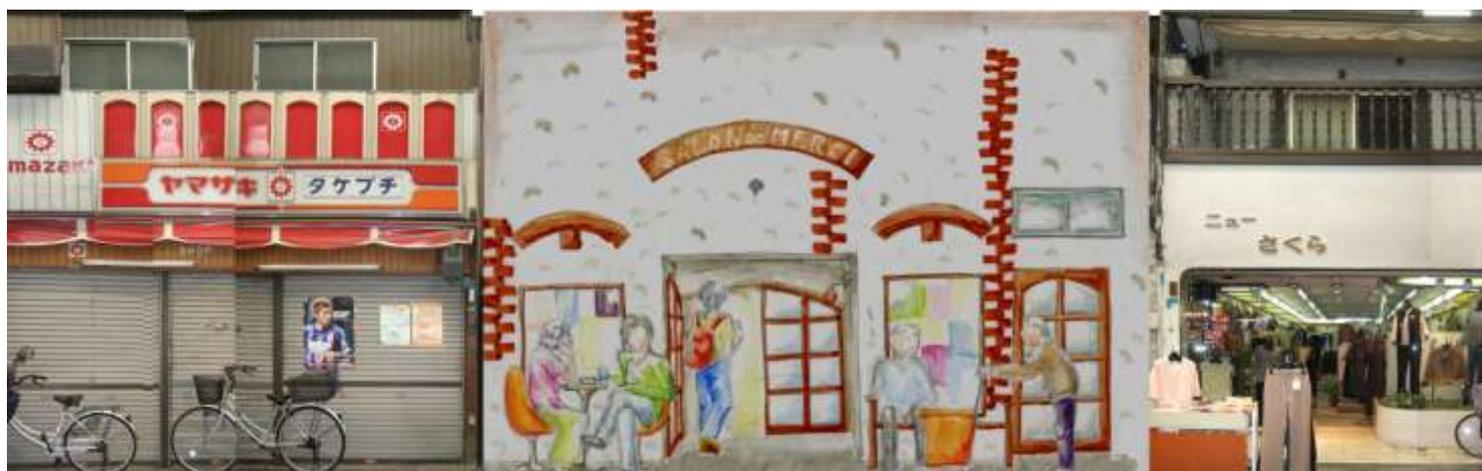
# 提案3：空き店舗を若者に

---



# 提案4: 腰を下ろせる場所を

---



# 提案5：遊びを通じて世代交流を

---



# 将来像

---

- 平野は行き続けるまち  
→ 世代、年代、時間、人の交流を
- 建物を「使って残す」

「人付き合い」を大切にして  
馴染み、愛着の残るまち